

平成30年度事業報告

1. 概要

我が国は、世界に類を見ない超高齢社会が進行しており、少子高齢化の進展に伴い、将来に必要な労働力人口が減少することが懸念されています。

近年、日本経済は緩やかな回復基調が続いており、雇用情勢が大きく改善する一方で、企業における人手不足も顕在化しています。

高齢化、少子化が進む中、日本経済の活力を維持していくためには、働く意欲のある高齢者が、長年培ってきた知識や経験を活かし、年齢にかかわらず活躍し続けることができる「生涯現役社会」を実現することが不可欠とされており、就業を通じて高齢者の福祉増進に資するシルバー人材センター事業の重要性和地域社会の期待は一層大きくなっております。

このような状況の下、当センターは、地域社会の一員として、積極的に就業開拓活動及び普及啓発活動に取り組み、高齢者の活躍の場を提供するとともに、ボランティアなど様々な社会活動に参加することで、生涯現役社会を目指し、各事業に取り組んでまいりました。

平成30年度の事業実績においては、「契約金額」は新規顧客の獲得等により公共事業、民間事業とも前年度を上回り、単年度収支で640万円の黒字となりました。

また、会員数においては、年度末で393名と前年度に比べ27名の増加となりました。

以下、平成30年度事業の概要について報告します。

2. 主な事業内容

(1) 就業機会の提供

平成30年度の実績は、延2,785件で前年度に比べて43件の伸びとなりました。

また、就業実人員では345人の会員の方々が就業されました。

(2) 会員の増強と普及啓発活動

広く市民、事業所等にセンターの活動や事業内容を周知するため、下記の活動を実施しました。

- ① シルバーの日として、11月17日、18日に向日町競輪場で開催された「向日市まつり」に出展し、シルバー事業の普及啓発活動の一環として、

役員及び職員による会員募集並びに仕事の受注を行いました。

- ② 11月23日には、「ボランティア清掃」として阪急西向日駅周辺の清掃を行い、シルバー事業の普及啓発活動を実施しました。
- ③ 入会案内のチラシを市内に全戸配布するとともに、「60歳以上の方の仕事の説明会」を計4回開催し、新規会員の獲得に努めました。
- ④ 隣接する老人福祉センター桜の径での出張説明会を12月に3回実施しました。
- ⑤ 入会募集中のマグネットシートを作成し、センターで使用している4台の車両に貼り入会促進に努めました。

(3) 安全・適正就業の推進

- ① 事務所において「安全標語」を掲示するとともに、会員が安全の意識を常に持ち、より一層安全就業の充実を図るため、安全委員が就業現場をパトロールし、事故防止に努めました。また、京都府安全適正就業大会で、当センターの会員が安全標語の最優秀賞を受賞しました。
- ② 除草作業において、刈払機を安全に取り扱うための知識や操作方法の習得を目的として、11月8日に京都府農業機械士協議会から講師を招き「刈払機講習会」を実施しました。
- ③ 熱中症予防対策として、冷却タオルの配布や作業時間の短縮、複数人作業の徹底を図りました。
- ④ 適正で公平な就業を推進するため、一人でも多くの会員に就業の機会を提供できるよう未就業会員の解消に努めました。

(4) 講習会、研修会の実施

- ① 高齢者活躍人材育成事業を京都府シルバー人材センター連合会と連携して、高齢者の雇用就業機会の確保を促進することを目的に、7月10日、11日の2日間「清掃スタッフ講習会」を開催しました。また、日常生活支援事業として8月22日～24日の3日間、「家事援助サービス講習会」を開催しました。
- ② 会員の接遇マナーの向上を目指して、1月29日に、一般社団法人日本マナーOJTインストラクター協会から講師を招き、「接遇マナー講習会」を実施しました。
- ③ 会員の日常生活や就業途中での交通事故の防止を目的として、3月8日に、向日町警察署員を講師に招き、「交通安全講習会」を実施しました。

(5) 歳末おかたづけ応援隊事業の実施

11月中旬から12月下旬までの間、向日市社会福祉協議会と協力し、生活支援を必要とする高齢者世帯のニーズへの対応として、「歳末おかたづけ応援隊事業」を実施しました。

(6) 組織体制の充実

- ① 全国シルバー人材センター事業協会や京都府シルバー人材センター連合会が実施する研修・講習会に積極的に参加するとともに、山城地域拠点シルバー人材センター連絡会等において、昨年に引き続き職員研修会を実施し、他センターとの意見交換など、職員の資質向上に努めました。
- ② 会員の作業の効率化と安全面を考慮し、車両の買い替えや、刈払機等の機械、器具の整備を図りました。
- ③ 除草、竹やぶの手入れを行う職群班を増設するなど、活発な職群班活動に努めました。また、シルバーの会報や就業募集チラシの配布など地域班の活用により就業開拓、就業支援に努めました。